

## 自治体における肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップ

研究分担者：相崎英樹 国立感染症研究所 ウイルス第二部

研究要旨：感染を知らずながら治療を続けていない人が 50-120 万人も存在すると推定されており、陽性者フォローアップは緊急の課題である。そこで、肝炎ウイルス検査により見いだされた陽性者を専門医療機関へ導き、その後のフォローアップが必要であると考えられ、肝炎ウイルス検査陽性者を適切な治療に導入することを目的にシステム構築を目指した。これまでの研究から、過去の陽性者、調査票に返信しない陽性者、フォローアップに同意しない陽性者への対応の重要性が示された。そこで、本年度はこのような陽性者に対して、行政が持つ情報を駆使して絞り込みをかけて、より効率の良いフォローアップ法の構築を目指した。

### A. 研究目的

感染を知らずながら治療を続けていない人が 50-120 万人も存在すると推定されており、効果の高い治療薬や医療費助成があるにもかかわらず、検査が治療に結びついていない。そこで、肝炎ウイルス検査により見いだされた陽性者を専門医療機関へ導き、その後のフォローアップが必要であると考えられる。しかし、自治体が保有する肝炎ウイルス検査陽性者リストは高度な個人情報であるため、自治体はその扱いに慎重にならざるを得ない状況である。適切な治療を受けなかった場合、肝硬変、肝癌と進行することから「命のリスト」ともいえる肝炎ウイルス検査陽性者リストをその高度な個人情報の保護をしつつ利用することで、肝炎ウイルス検査陽性者を適切な治療に導入することを目的にシステム構築を目指した。

#### (倫理面への配慮)

肝炎ウイルス陽性者の個人情報については自治体で匿名化後、感染研では感染研での倫理委員会に従い取り扱う。

### B. 研究方法

0 県の把握する陽性者のうち 5 年前までさかのぼり、行政機関が有する情報を駆使して、真に治療導入を必要とする陽性者を絞り込みフォローアップを行った。住民票、精密検査報告

書、治療費助成受領書、電話調査、前年度のフォローアップ返信記録、申込書から陽性者を絞り込みフォローアップした。

### C. 研究結果

平成 23 年度～平成 27 年度までの委託医療機関受診者：B 型ウイルス検査陽性者 342 名、C 型ウイルス検査陽性者 343 名の内、

- ・電話つながり、本人より精検受診したと確認したもの(2%)
- ・申込書に「過去に治療あり」と記載のあったもの(0.7%)
- ・本人死亡が確認されたもの(0.4%)
- ・病院の結果も記載ミスにより陽性者として扱っていたもの(0.3%)
- ・医療費助成受領が確認できたもの(1.3%)
- ・精検結果報告書を受領しているもの(8.7%)
- ・昨年度実施した肝炎フォローアップに返送があったもの(6.8%)
- ・引越し等によりフォローアップできなかった者(1.8%)

を除いた B 型 55 名及び C 型 49 名計 104 名(15%)を対象とした。返信があったものは B 型 7 名及び C 型 10 名計 17 名(16%)と少なかったものの、専門医療機関受診率は B 型 5 名及び C 型 8 名計 13 名(76%)と多く、さらに受療は B 型 5 名及び C 型 4 名計 9 名(53%)であった。

#### D. 考察

これまでの研究から、過去の陽性者、調査票に返信しない陽性者、フォローアップに同意しない陽性者への対応の重要性が示されたことから、行政機関が有する情報(住民票、精密検査報告書、治療費助成受領書、電話調査、前年度のフォローアップ返信記録、申込書)から真に治療導入を必要とする陽性者を絞り込みフォローアップした。調査票への返信数は少なかったものの、76%が専門医療機関を受診し、53%が治療に入った。受診しない原因として、かかりつけ医の理解不足、症状が少ない、経済的な問題などが見出された。個々の陽性者は個人情報をおさない、番号で追跡可能となっており、次年度の個別受診勧奨が可能となった。

#### E. 結論

過去5年間を含む肝炎ウイルス検査陽性者から行政が持つ情報を用いて絞り込みフォローアップを行った。陽性者の多い大きな都市型の自治体でもフォローアップ可能なことが示された。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表(本研究に関わるもの)

##### 1. 論文発表

- 1) 相崎英樹、和気健二郎、脇田隆字、ここま  
でわかったC型肝炎ウイルスの感染・複製機  
構、目覚しく治療効果を発揮するC型肝炎治  
療、Mebio、メジカルビュー社、東京、  
2017;34(1);4-13.
- 2) 相崎英樹、脇田隆字、肝炎ウイルス検査の  
すすめ、くらしの豆知識、国民生活センタ  
ー、東京、2016、200-201.
- 3) 相崎英樹、脇田隆字、C型肝炎治療における  
新時代の幕開け、C型肝炎ウイルスの複製・  
増殖のメカニズム、医薬ジャーナル、医薬  
ジャーナル社、大阪 2016;52;67-70.
- 4) 渡士幸一、相崎英樹、B型肝炎ウイルス研究  
のトピックス、特集:B型肝炎- ワクチン定

期接種化にあたって、小児科、金原出版、  
東京、2016、1107-1111

##### 2. 学会発表

###### 1) 国際学会

###### 2) 国内学会

(1) 相崎英樹、吉岡健太郎、脇田隆字、自治  
体における肝炎ウイルス検査陽性者フォロー  
アップシステムの構築、第41回日本肝臓学会  
東部会、東京、2016年12月8-9日.

#### G. 知的所有権の出願・取得状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

1) 相崎英樹、井上 貴子、飯島尋子、石上雅敏、  
上野義之、小川浩司、片野義明、菊池嘉、工藤  
正俊、酒井明人、坂本穰、島上哲朗、下田和哉、  
日浅陽一、正木尚彦、持田智、吉岡健太郎、吉  
澤要、米田政志、渡邊綱正、是永匡紹、自治体  
向け肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップ  
導入マニュアル第3版、効率的な肝炎ウイルス  
検査陽性者フォローアップシステムの構築の  
ための研究班